

<h1>第 357 回月例会議事録</h1>	安全技術応用研究会	
	承認	記録
	企画運営委員長 保 科	企画運営委員 森

- ◎ 日 時：2023年6月16日（金）13時00分～16時30分（ブレイクアウトルーム12時～18時00分）
- ◎ 場 所：リモート開催（Zoom）
- ◎ 出席者：18名（企業・団体会員7社12名、個人会員6名、他0名）

1. 開会挨拶・トピックス紹介、他

13：00～13：05 企画運営委員会

月例会日程等および納涼会について説明した。

2. 自己紹介「自身の役割り、昨年の反省と今年の抱負」

13：05～13：08 月例会初参加者

1名発表

3. 活動報告「安全確認型研究会活動報告」

13：08～13：43 安全確認型研究会主査 佐藤 国仁 氏

概要

安全確認型システムの基本定義および構成、今後の課題を説明した。

- ・基本定義：安全が確認されたときのみ、機械の運転を許可するシステム
（他に5つ重要な追加条件がある）
- ・構成：安全確認型システムの基本機能は次の通りであり、二つのインターロックシステムによって構成される。
- ・第二期の課題：安全確認型システムは、安全状態をいかに定義するかがスタートとなる。ゆえに第二期の課題としては安全状態の定義の拡張（の可能性）を議論している。協働ロボットについて議論している。

*安全確認型研究会への参加希望、あるいは説明を求める方は幹事梶岡氏宛連絡ください。

off_kj_5201_6102@yahoo.co.jp

4. 課題説明「IMS 統合生産システムの課題と進め方について」

13：55～14：51 企画運営委員長 保科 修一 氏

概要

IMS 委員会の新たな活動について提案した。

IMS 委員会の活動をさらに発展させるため、従来の IMS 委員会の活動を、いくつかのグループに区分する。

- ・IMS を構築するための普遍的な技術原則（1グループ）
- ・特定の製品・工法が対象の IMS の設計事例（2グループ）

→ 従来の IMS 委員会は普遍的な技術原則を引き継ぐ

5. 課題討議「ブレイクアウトルーム利用」

15:05~16:30 月例会参加者 全員

さくら : テーマ「安全確認型システム」7名参加

あやめ : テーマ「IMS 統合生産システム」9名参加

つばき : 自由討議 0名参加

- ・どちらの課題も事例で示すことが重要との意見がまとまった。
- ・ユーザー側のインテグレーターの企画力が低下し、メーカー側へ丸投げが見受けられる。熱のこもった有意義な討議ができた。

6. 閉会挨拶・その他

- ・次回第358回月例会は、7月21日（金）10時00分~16時30分に対面（きゅりあん）およびリモートで開催予定。

月例会説明資料 : ホームページ内の会員専用ページにて掲載

以上